

第十九回 青森県近代文学館

川柳大会入選句集

青森県近代文学館

第十九回 青森県近代文学館川柳大会（誌上大会）

○宿題と選者（各題一句詠・共選）

「コロナ」 夏草ふぶき・長利冬道・山本弘志

「未来」 田中 薫・綿谷夕雨子・高森一吞

「揺れる」 潤子・成田我楽・野沢省悟

○投句方法

郵送または近代文学館カウンターでの受付

○投句受付

令和二年十一月二日（月）～十二月二十八日（月）

○入選結果発表

令和三年二月二十六日（金）

○主催

青森県近代文学館

令和三年三月七日に開催を予定していた第十九回青森県近代文学館川柳大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者及び関係者の皆様の健康と安全を第一に考え、当日の大会開催を中止とし、宿題のみの誌上大会といたしました。

初の誌上大会ということで、至らぬ点もあつたかと存じますが、皆様のおかげをもちまして、滞りなく開催し、この度、入選句集を発行することができました。御参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。また、開催に際しましてお力添えをいただきました、選者の皆様と当館文学資料調査員の野沢省悟様にこの場を借りて感謝申し上げます。

なお、今大会は、全国文学館協議会第九回共同展示「3・11文学館からのメッセージ」の関連事業とし、特選作と秀句をパネル化し、「災害と日常―第十九回青森県近代文学館川柳大会より―」と題して、令和三年二月二十六日（金）から三月二十四日（水）まで、当館企画展示室前ロビーに展示することとしております。

宿題「コロナ」

夏草ふぶき 選

【佳作】

ウイルスとヒトは原始の森を抜け
 コロナ禍に地球のくしゃみ止まらない
 ウイルスを踏まないように食う南瓜
 メンタルの脆さをコロナ炙り出す
 コロナ禍で三密悲し午後十時
 生き方の問いだったのか新コロナ
 緩めれば透かさずコロナ付け上がる
 コロナ過の朝も東に陽は昇る
 一年を圧縮されたまま閉じる
 闇の向うは天涯孤独今日も雪
 宇宙旅行コロナが消えた無重力
 陽性の調査でポロリ隠し事
 にんげんの知恵はコロナを抑え込む
 一年の計をコロナが封じ込め
 マスクから延びる生命線である
 シンプルに戻れと使者の名はコロナ
 踏まれたるマスクにもある自尊心
 コロナ禍の庭に真ツ赤なバラ二輪
 コロナには負けぬいっぴきずつの蟻
 手探りの商いをするコロナの世

村田けん一
 山野茶花子
 小野五郎
 太長根英子
 高杉 幸
 千葉かほる
 高橋幸子
 渡辺遊石
 北山まみどり
 笹田隆志
 太田 久
 成田ゆき
 川村俊雄
 渡辺享子
 真島久美子
 齋藤 紀
 三橋 聖
 天野裕子
 千島鉄男
 佐藤寿見子

五百羅漢五百の地藏マスクする
 五本指ガリリ侵食するコロナ
 ウイルスも愚痴も腐葉土にする雪
 コロナ知らずに震災で姉が逝く
 桃太郎を憎いコロナに差し向ける
 ステイホーム羽に油を塗っていく
 催しのスイツチ消してゆくコロナ
 疫病が隣に座る午後のお茶
 コロナ禍の露店弁当寒晒し
 ウイルスがパントマイムで壁になる

蒔苗志野
 藤井智史
 有馬洋子
 ふくい走駿
 寺田無垢
 旅男
 尾上 宏
 沢田百合子
 福田文音
 西沢葉火
 渡邊こあき
 三浦清雪
 佐藤はじめ
 佐藤雅秀

【特選】

終息にひとときわ高く祭り笛

佐藤雅秀

【秀句】

これからを摘んでしまった新コロナ
 コロナ禍のゴミは畳んだ愚痴も入れ
 コロナ来て地球は清くなつて行く

渡邊こあき
 三浦清雪
 佐藤はじめ

宿題「コロナ」

長利冬道 選

【佳作】

コロナ禍に野盗の如き黒マスク
戦争を知らない僕にコロナ戦
何もせずアツシー君を待つコロナ
桃太郎を憎いコロナに差し向ける
コロナ渦にノアの方舟船出する
崎巻き出口失うコロナ菌
ウイルスがパントマイムで壁になる
ナマハゲもコロナ収束祈る声
大事な余生をコロナが支配する
コロナ菌我がもの顔で闊歩する
仁王像の睨みをきかす新型コロナ
ウイズコロナ空に五つの輪を描く
これからを摘んでしまった新コロナ
物言う影をコロナの街へ置いてきた
人類とコロナ綱引きのスタート
ウイルスとヒトは原始の森を抜け
コロナから学べ御破算からの再起
コロナ禍で買った絆の握り飯
ホモサピエンス手強い敵となるコロナ
メンタルの脆さをコロナ炙り出す

葉月 久
三木ゆりな
関 柳人
寺田無垢
池 けい子
種市千枝子
西沢葉火
納谷助男
太田キヌエ
白川 莫
吉見恵子
成田我楽
渡邊こあき
むさし
吉田吹喜
村田けん一
山本弘志
横山キミエ
石澤はる子
太長根英子

税金でコロナウイルス旅をする
いつの日かコロナは軽い風邪となる
コロナにも言いたい事がどつとある
コロナ打破夢に出てきた牛のとし
コロナ禍に覆された平和ボケ
カラフルなマスクとモノクロなこの世
地球人仲良しか見つめるコロナ
コロナ来て地球は清くなつて行く
コロナ禍で揺れる列島震度8
ウイルスの占拠の地球で人を恋う

田沢恒坊
福村美鈴
川守田秋男
工藤たか子
八木田幸子
真島 涼
鎌田勝治
佐藤はじめ
石木田淳一郎
坂本真里

【秀句】

人間が大好きなんだボクコロナ
催しのスイツチ消してゆくコロナ
駅前でコロナの尻尾踏んじやった

柳谷たかお
尾上 宏
神 千巖

【特選】

コロナ禍に地球のくしゃみ止まらない

山野茶花子

宿題「コロナ」

山本弘志 選

【佳作】

コロナ禍に野盗の如き黒マスク
全米が泣いたソーシャルディスタンス
駅前でコロナの尻尾踏んじやった
僕だってGOTOしたいラムネ玉
戦争を知らない僕にコロナ戦
コロナ知らずに震災で姉が逝く
自助共助だけを求める公助殿
コロナ渦にノアの方舟船出する
神さまのくしゃみやみへパンデミックの禍
ステイホーム羽に油を塗っていく
一年の計をコロナが封じ込め
疫病が隣に座る午後のお茶
ウイルスがパントマイムで壁になる
コロナ禍の明日が見えない今日一途
物言う影をコロナの街へ置いてきた
少しだけ猫背寂しくなんかない
巣ごもりでスリムになった冷蔵庫
コロナ禍で買った絆の握り飯
らんらんらんぶった切られた縄電車
メンタルの脆さをコロナ炙り出す

葉月 久
木村美映
神 千巖
三浦敬光
三木ゆりな
ふくい走駿
黒川 捷
池 けい子
瀧尻善英
旅男
渡辺享子
沢田百合子
西沢葉火
奥山恵子
むさし
須藤しんのすけ
三浦あつ子
横山キミエ
内山孤遊
太長根英子

誇りです頑張ってる娘はナース
進化した猿たちがみたウィズコロナ
コロナ禍に地球のくしゃみやみ止まらない
いつの日かコロナは軽い風邪となる
コロナにも言いたい事がどつとある
三密を避けて優雅に別居する
シンプルに戻れと使者の名はコロナ
コロナ来て地球は清くなっ行って行く
たとえばコロナたとえばポインセチアのままに
ウイルスの占拠の地球で人を恋う
小野こゆみ
月波与生
山野茶花子
福村美鈴
川守田秋男
夏草ふぶき
齋藤 紀
佐藤はじめ
笹田かなえ
坂本真里
三浦蒼鬼
栗橋くにお
対馬閑子
【特選】
生き方の問いだったのか新コロナ
千葉かほる

宿題「未来」

田中 薫 選

【佳作】

昔むかしコロナをあびたドラえもん
ワクチンの完成ほっと未来に灯
漬物はどれも未来のためにある
ドーンと未来へ青空引き連れて
来世はジーパン似合いますように
前を見る過去は未来の邪魔をする
未来って心の翼かも知れぬ
僕は過去君は未来へ逃げている
来世でもいっしょになろう なあ妻よ
おばあさんになつたら何になりたいの
まっすぐに笑える明日持ち歩く
ステイホーム画布はみ出して描く未来
嬰兒の瞳の空を信じます
春の庭思い描いて頬ゆるむ
三日月に吊られブラブラする未来
誰でもがシトラスリボン掲げる世
遠い日の路地に余白の二人掛け
無数の扉僕が選んだ道である
未来図の色は無限に溶いてある
日本沈没いつもながらに暮らします

内山孤遊
吉田吹喜
濱山哲也
船水 葉
高森一吞
柳 藤男
岩崎雪洲
旅男
瀧尻善英
佐藤雅秀
横山キミエ
田村美穂子
尾形せいじ
天野裕子
藤井智史
太長根英子
岩崎眞里子
川嶋 翔
春日 祐
対馬閑子

私からブリキの鳥が飛んで行く
視界良好こだわり棄ててから未来
「未来」の字だけは自筆に限ります
一升瓶かかえ未来の話など
シンプルにただシンプルに陽が沈む
まっ白い未来に降らす桜さくら
革命に波立つ禁断のワイン
遅咲きの娘の子へ苺の苗植える
裂け目からかすかに香るファンファーレ
いつまでも見つめる星のエロい青

守田啓子
石澤はる子
潤子
真島美智子
真島久美子
福田文音
菊池 京
熊谷冬鼓
藤田めぐみ
須藤しんのすけ

【秀句】

人として生きてほしいこの地球
未来にはきつとタライが飛んで来る
あなたなら明るい種が蒔けますよ

ふくい走駿
二部智鶴子
清藤和賀子

【特選】

永遠にこの地に咲いてみたいもの

太田キヌエ

宿題「未来」

綿谷夕雨子 選

【佳作】

ステイホーム画布はみ出して描く未来
一升瓶かかえ未来の話など
ロボットとお見合います名は「未来」
来なかった未来はCMの後で
少年が描く未来図に秋が澄み
シヤボン玉が墜ちたあたりにある未来
日本沈没いつもながらに暮らします
別れたの いつかきつとが 似合う人
未来って心の翼かも知れぬ
上弦の月の秘めたる未来像
おみくじが僕の未来をもてあそぶ
はやぶさに子等は未来を乗せてみる
来世でもいっしょになろう なあ妻よ
タイムマシンで父が帰ってきたらしい
団塊のほくらがいけない近未来
虹色の未来を森で模索する
びっくり箱のふたに未来と書いてある
乳歯からポロリ未来のファンファーレ
絵の中の鬼を明日へ解き放つ
ワクチンの完成ほつと未来に灯

田村美穂子
真島美智子
井上健蔵
木村美映
清水川魚
千島鉄男
対馬閑子
佐藤 宰
岩崎雪洲
黒川 捷
寺田無垢
池 けい子
瀧尻善英
沢田百合子
丹下凱夫
白川 莫
高橋星湖
成田我楽
むさし
吉田吹喜

私からブリキの鳥が飛んで行く
視界良好こだわり棄ててから未来
猫抱いてパズルで遊ぶ子の未来
幸せの風そんな数式考える
革命に波立つ禁断のワイン
GOTOで過去と未来を行き来する
シャールにて一途に受精待つのち
太陽という鉛筆一本立ててみる
ジャンケンの後にも生えてくる翼
三日月に吊られプラプラする未来

守田啓子
石澤はる子
工藤たか子
小山内真由美
菊池 京
太田 久
鈴木みさを
東川桃太郎
北山まみどり
藤井智史
清藤和賀子
船水 葉
春日 祐
小野五郎

【特選】

茜雲そこなら明日が見えますか

小野五郎

宿題「未来」

高森一吞 選

【佳作】

めざめれば未来の夢にまた一步
ワクチンに託す地球の未来地図
百歳が即戦力になる未来
少年が描く未来図に秋が澄み
老いてなおのびしろを未来へつないでる
善と悪握って赤児良く眠る
がんばってる子ががんばれと枯れちゃった
もう一度女に賭ける落椿
ドーンと未来へ青空引き連れて
人として生きてほしいこの地球
遠い日の路地に余白の二人掛け
あなたなら明るい種が蒔けますよ
はやぶさに子等は未来を乗せてみる
来世でもいっしょになろう なあ妻よ
まっ白い未来に降らす桜さくら
ハヤブサ2新たな夢へサバイバル
乳歯からポロリ未来のファンファーレ
アトムとはそろそろ会えるはずですが
泣き止もう青空まではあと十歩
産声は未来を開くファンファーレ

工藤京子
辻口風来坊
香田龍馬
清水川魚
村上てる
高橋幸子
伊東悦子
三浦敬光
船水 葉
ふくい走駿
岩崎真里子
清藤和賀子
池 けい子
瀧尻善英
福田文音
高橋りょう
成田我楽
石橋芳山
きさらぎ彼句吾
綿谷夕雨子

おみくじが僕の未来をもてあそぶ
赤子にぎる拳の中に何かある
万歩計未来は何歩先ですか
一升瓶かかえ未来の話など
未来にはきつとタライが飛んで来る
知らぬ間に未来の色が褪せて行く
革命に波立つ禁断のワイン
裂け目からかすかに香るファンファーレ
太陽という鉛筆一本立ててみる
未来永劫ふるさとは母の海

寺田無垢
佐藤ヨシミ
村田けん一
真島美智子
二部智鶴子
佐藤はじめ
菊池 京
藤田めぐみ
東川桃太郎
三浦蒼鬼
昆 八重子
尾形せいじ
八木田幸子
岩崎雪洲

【秀句】

未来永劫変わらぬだろう母の愛
嬰兒の瞳の空を信じます
さあ覗いてご覧荒廃した未来

【特選】

未来って心の翼かも知れぬ

宿題「揺れる」

潤子 選

【佳作】

揺れながらやがてわたしの道になる
火気厳禁焼け木杭の薄煙り
揺れながら回る尾骨のない地球
秒針のゆらめき新しい孤独
後頭部に立つ波平の毛一本
揺れながら母は娘に還っていく
ブランコで地球の青を確かめる
蜘蛛の巣を張って百年後を生きる
猫のひげ御主人さまを味見する
分母がきみだから揺らぐに來れた
愛されたのは私が焼いたビスケット
コココーラ一本半の揺れでした
50年揺れ続けているコザの月
夢でいい亡き妻にああ海は凧
断層に口づけしてるのは誰だ
わたくしが揺れる生きるといふ刺激
くちびるの揺れをくちびるで覆う
木を揺する横田めぐみが戻るまで
非難浴びバラだってそりゃ揺れるのよ
医学的笑顔で医師の痛告知

山野茶花子
八木田幸子
鈴木みさを
真島美智子
二部智鶴子
佐々木こう子
真島 芽
千島鉄男
天野裕子
きさらぎ彼句吾
田沢恒坊
鳴海賢治
滋野さち
ふくい走駿
むさし
位田仁美
夏草ふぶき
中村誠子
池 けい子
栗橋くにお

疑問符の点は死ぬまで揺れている
進め進め雪の音色に揺れながら
チューリップ噂話を始めだす
お返事にリボンをつけるから迷う
ディスタンスとレジスタンスの狭間で
ボンネットバスで涅槃に行くつもり
ブランコを止めた責任取りますね
酔いながら烏賊の煮付けになって行く
ピアノなら伝えられそうスキマ風
日本がマナーモードで揺れている
成田我楽
柳谷たかお
蒔苗志野
北山まみどり
三橋 聖
濱山哲也
川守田秋男
小野五郎
旅男
西沢葉火
福田文音
沢田百合子
守田啓子
【特選】
ジュニアでもシニアでもない心太
三浦敬光

宿題「揺れる」

成田我楽 選

【佳作】

ギロチン台に向かう冬日に揺れながら
テーブルのプリンが揺れただけの愛
ジュニアでもシニアでもない心太
夢でいい亡き妻にああ海は風
アルバムを捲ってゆけば揺れる椅子
非難浴びバラだってそりゃ揺れるのよ
火の中の言霊一句さずかりぬ
本心をなくした葦が揺れている
日本がマナーモードで揺れている
ふるふると心の奥を揺らす恋
医学的笑顔で医師の痛告知
断層に口づけしてるのは誰だ
タップダンス100人で転がす地球
昨夜から揺れてた星を抱きしめる
囁やきの美味さに揺れている独り
ゆらりゆらりゆれる尻尾が本音吐く
決断した筈のプランコまた揺れる
コカコーラ一本半の揺れでした
分母がきみだから揺らがずに来れた
揺れながらやがてわたしの道になる

阿部治幸
米山明日歌
三浦敬光
ふくい走駿
原口健二
池 けい子
福田文音
丹下凱夫
西沢葉火
三浦清雪
栗橋くにお
むさし
吉田吹喜
石橋芳山
横山キミエ
尾形せいじ
石澤はる子
鳴海賢治
きさらぎ彼句吾
山野茶花子

行く行けぬ逢えぬ逢いたい新コロナ
酔いながら烏賊の煮付けになって行く
わたくしが揺れる生きるという刺激
プランコで地球の青を確かめる
恋かしらクラゲになってしまえそう
後頭部に立つ波平の毛一本
日々揺れる道振り向けば地平線
味方だったはずの玉子が揺れている
揺れながら回る尾骨のない地球
お返事にリボンをつけるから迷う

金田昭子
小野五郎
位田仁美
真島 芽
真島 涼
二部智鶴子
鎌田勝治
菊池 京
鈴木みさを
北山まみどり
春日 祐
濱山哲也
千島鉄男
坂本真里

【秀句】

水底に揺れる声ありシーグラス
ボンネットバスで涅槃に行くつもり
蜘蛛の巣を張って百年後を生きる
【特選】
いちめんの菜の花しあわせへ揺れよ

宿題「揺れる」

野沢省悟 選

【佳作】

揺れながら押ししたハンコに縛られる
ダイスタンスとレジスタンスの狭間で
激震の恐怖へ余震まだ続き
履歴書を買う還暦のこころ揺れ
分断の色が揺れてる民主主義
恍惚と不安に揺れるさくらんぼ
テーブルのプリンが揺れただけの愛
ジュニアでもシニアでもない心太
木枯らしに迷い楽しむカラスウリ
二兎を追うコロナ対策揺れに揺れ
体感で震度がわかる国民性
イヤリングちよつと揺らして小さいウソ
ガタピシと揺れるコロナの文明社会
断層に口づけしてるのは誰だ
数え歌ははのない子を眠らせる
たこ焼きに花かつお自由とは何
囁やきの美味さに揺れている独り
寂しさに震えアニメの中に棲む
ガツタンゴトン無限列車の鬼退治
コカコーラ一本半の揺れでした

井上健蔵
三橋 聖
清水川魚
高杉茂勝
神 千巖
対馬閑子
米山明日歌
三浦敬光
岩崎眞里子
黒川 捷
高橋大洋
高橋星湖
吉見恵子
むさし
須藤しんのすけ
守田啓子
横山キミエ
佐藤寿見子
綿谷夕雨子
鳴海賢治

愛されたのは私が焼いたビスケット
ひとしきり揺れる春とは修羅なのだ
ブランコを止めた責任取りますね
だまりなさい笑って言える時が来る
GOTOの功罪に揺れ第三波
くちびるの揺れをくちびるで覆う
酔いながら烏賊の煮付けになって行く
綻びも不純もほしいから揺れる
ちこちゃんのずばりに大人うろたえる
お返事にリボンをつけるから迷う

田沢恒坊
月波与生
川守田秋男
坂本清乃
渡邊寂隆
夏草ふぶき
小野五郎
藤田めぐみ
太田 久
北山まみどり
丹下凱夫
種市千枝子
辻口風来坊
木村美映

【秀句】

本心をなくした葦が揺れている
玉手箱快拳に揺れてさらに夢
本当にいいのか揺れる墓仕舞い

【特選】

十年を経てもいまだに揺れている

第十九回 青森県近代文学館川柳大会特選一覧

宿題「コロナ」

終息にひとときわ高く祭り笛

夏草ふぶき 選

佐藤雅秀

長利冬道 選

コロナ禍に地球のくしゃみ止まらない

山本弘志 選

山野茶花子

生き方の問いだったのか新コロナ

千葉かほる

宿題「未来」

永遠にこの地に咲いてみたいもの

田中薫 選

太田キヌエ

茜雲そこなら明日が見えますか

綿谷夕雨子 選

小野五郎

未来つて心の翼かも知れぬ

高森一吞 選

岩崎雪洲

宿題「揺れる」

ジュニアでもシニアでもない心太

潤子 選

三浦敬光

いちめんの菜の花しあわせへ揺れよ

成田我楽 選

坂本真里

十年を経てもいまだに揺れている

野沢省悟 選

木村美映

【総評】

野沢省悟

コロナ禍の中、昨年の大会は中止となり、今年の大会は誌上大会となった。そして、今年3・11より10年の節目でもある。全国文学館協議会第9回共同展示「3・11文学館からのメッセージ」の関連事業として当館では「災害と日常」をテーマとして、応募された川柳作品の特選秀句をパネル展示することとした。誌上大会は初めての試みで不安もあったが、県内外より154名の応募があり、また、質の高い作品も多く、喜ばしい結果となった。応募された皆様、そして選者の方々に深く感謝申し上げたい。

〈ジュニアでもシニアでもない心太〉〈いちめんの菜の花しあわせへ揺れよ〉〈十年を経てもいまだに揺れている〉。3・11から10年、個々人の時の流れが揺れ、菜の花の輝きに「揺れよ」と祈る。そしていまだに揺れ続ける人々、社会、そして日本。〈終息にひとときわ高く祭り笛〉〈コロナ禍に地球のくしゃみ止まらない〉〈生き方の問いだったのか新コロナ〉。終息を願う祭り笛、地球全体に広がるコロナ。そのコロナは人々に生き方を問う。〈永遠にこの地に咲いてみたいもの〉〈茜雲そこなら明日が見えますか〉〈未来つて心の翼かも知れぬ〉。永遠に咲く花を思い、茜雲に心を寄せる。その心にある翼こそが未来だという励まし。まさに川柳による今を生きる人間を活写した作品群である。

参加者（受付順）

- | | | | | |
|-------|-------|---------|---------|--------|
| 柴田重虎 | 長利冬道 | 西沢葉火 | 石澤はる子 | 八木田幸子 |
| 井上健蔵 | 三木ゆりな | 相馬つよし | 佐藤寿見子 | 齋藤 紀 |
| 工藤京子 | ふくい走駿 | 奥山恵子 | 綿谷夕雨子 | 葛西楊舟 |
| 三橋 聖 | 岩崎雪洲 | 福士玲子 | 太長根英子 | 田中 薫 |
| 葉月 久 | 岩崎眞里子 | 納谷助男 | 千島鉄男 | 位田仁美 |
| 辻口風来坊 | 原口健二 | 太田キヌエ | 鳴海賢治 | 真島久美子 |
| 田村美穂子 | 清藤和賀子 | 白川 莫 | きさらぎ彼句吾 | 真島美智子 |
| 香田龍馬 | 田鎖晴天 | 高橋星湖 | いわせてい | 真島 芽 |
| 木村美映 | 黒川 捷 | 吉見恵子 | 天野裕子 | 真島 涼 |
| 田邊 亨 | 関 柳人 | 三浦清雪 | 小野こゆみ | 二部智鶴子 |
| 清水川魚 | 友二 | 成田我楽 | さいとうみき | 水品団石 |
| 阿部治幸 | 佐藤 武 | 栗橋くにお | 田沢恒坊 | 潤子 |
| 高森一吞 | 寺田無垢 | 風晴正則 | 田中トモ子 | 春日 祐 |
| 榊 藤男 | 池 けい子 | 渡邊こあき | 月波与生 | 川村俊雄 |
| 高杉茂勝 | 瀧尻善英 | 佐々木こう子 | 川嶋 翔 | 柳谷たかお |
| 稲見則彦 | 中村誠子 | むさし | 熊谷冬鼓 | 鎌田勝治 |
| 高杉 幸 | 千葉かほる | 吉田吹喜 | 中村郁子 | 滋野さち |
| 奈良二郎 | 旅男 | 千葉朝子 | 山野茶花子 | 小山内真由美 |
| 村上てる | 種市千枝子 | 石橋芳山 | 小山田英子 | 佐藤はじめ |
| 神 千巖 | 佐藤ヨシミ | 須藤しんのすけ | 福村美鈴 | 石木田淳一郎 |
| 高橋幸子 | 渡辺享子 | 高木まあこ | 蒔苗志野 | 笹田かなえ |
| ふっこ | 昆 八重子 | 三浦あつ子 | 川守田秋男 | 菊池 京 |
| 対馬閑子 | 福田文音 | 守田啓子 | 金田昭子 | 藤田めぐみ |
| 米山明日歌 | 沢田百合子 | 濱山哲也 | 坂本清乃 | 太田 久 |
| 成田ゆき | 松森秀子 | 村田けん一 | 細川 静 | 鈴木みさを |
| 伊東悦子 | 高橋大洋 | 山本弘志 | 渡邊寂隆 | 東川桃太郎 |
| 三浦敬光 | 佐藤雅秀 | 横山キミエ | 工藤たか子 | 鈴木貴子 |
| 船水 葉 | 高橋りょう | 尾形せいじ | 夏草ふぶき | 北山まみどり |
| 有馬洋子 | 丹下凱夫 | 白戸清幸 | 小野五郎 | 三浦蒼鬼 |
| 佐藤 幸 | 尾上 宏 | 内山孤遊 | 笹田隆志 | 木村奈生美 |

渡辺遊石
 藤井智史
 伊藤のぶよし
 坂本真里

合計一五四名

第十九回青森県近代文学館 川柳大会入選句集	発行日 令和三年二月二十六日 編集・発行 青森県立図書館 青森県近代文学館 〒〇三〇—〇一八四 青森市荒川字藤戸一一九の七 TEL 〇一七(七三九)二五七五
--------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

禁無断転載